

# 平成29年度 第2回 府中市保健計画推進協議会会議録

日時：平成29年11月29日（水）

午前10時～11時30分

場所：保健センター3階健康教育室

■出席者 委員：藤原 佳典（学識経験者・

独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所  
社会参加と地域保健研究チーム研究部長）

渡邊 信（医療・東京都府中市歯科医師会）

田中 勝彦（企業職域・

むさし府中商工会議所、（有）柏屋取締役社長）

村上 邦仁子（行政・多摩府中保健所保健対策課長）

芦川 伊智郎（府中市社会福祉協議会事務局長）

オブザーバー：廣繁 理美（行政・多摩府中保健所生活環境安全課統括課長代理）

事務局：村越福祉保健部長

横道健康推進課長

石田健康推進課長補佐

福嶋成人保健係長

神田保健師（成人保健係）

中鉢栄養士（成人保健係）

中村栄養士（母子保健係）

加藤栄養士（成人保健係）

植松歯科衛生士（成人保健係）

※協議会設置要綱第6条の2項により、委員7名中5名が出席しているため、本協議会は、有効とされました。

■進行：福嶋係長

- ・開会宣言
- ・配布資料の確認 ※配布資料は別添参照

## 1 挨拶（藤原会長）

本日は開催に先立ちまして、オブザーバーの出席について皆さんにお諮りします。食育推進計画についての議論をするにあたり、多摩府中保健所の保健栄養推進担当 廣繁統括課長代理にオブザーバーとして出席を求めていますので、皆さんのご了承をいただきたいのですが、いかがでしょうか。特に問題なければ、廣繁さんにこのまま会議に出席していただき、必要に応じて専門家としての見地から、ご意見いただくことといたします。

■これより、議事進行は会長となる。※傍聴希望者なし

## 5 報告事項

### (1) 元気いっぱいサポーターアンケート報告

#### 【事務局】

このアンケートは平成27年度より、健康観や登録のきっかけ、活動についての満足度、地域の人とどの程度のかかわりがあるかといった人や地域との関わりの状況などを把握する目的で実施しています。各年度の内容については、資料1-2、1-3、1-4をご覧ください。

年度を追うごとに、からだスキャン大測定会や講演会などの事業に参加の際に、元気いっぱいサポーターの登録される方が増えていますが、どのような活動か明確に理解されないままサポーター登録する方も多く、アンケートを送付後に登録削除をされる方も増えていきます。また、追跡調査ができるように番号で管理していましたが、色々なご意見から今年度は記名式にした経緯もあり、一因かは不明ですが、回答率は54.1%、37.7%、31.7%と減少しています。

3か年のアンケートで共通の設問は、資料1-1をご覧ください。健康状態については、多少の上がり下がりがありますが、8割以上の方が「よい・まあよい」と回答され、ほぼ横ばいで推移しています。ボランティア活動では、①のスポーツが平成27年度から平成28年度以降10ポイント近く減少していますが、平成28年度より（サッカー・野球等の競技）と注意書きを挿入したことが関係していると考えます。ウォーキングなどは、⑧生活習慣の改善のための活動（栄養・運動・休息）に計上されていると考えます。元気いっぱいサポート事業の企画運営の関心については、年を追うごとに増えており、アンケートと共に活動を紹介している「サポーター通信」を見て活動が浸透しているのではないかと考えています。元気いっぱいサポーターリーダーの興味については、昨年度と今年度のみの調査ですが、2割に満たない状態です。このことから、活動に興味があるもののリーダーと言われるとやや負担に感じている方が多いのではないかと考えます。しかし、2割弱の方は、リーダーに興味を持っている方もいらっしゃるもので、このようなアンケートも活用しながらサポーターリーダー養成に力を入れていきたいと考えています。

以上のことから、サポーター活動を把握するために、今後どのような設問を入れていくと良いか等ご意見を頂ければと思います。よろしく申し上げます。

#### 質疑応答

##### 【委員】

平成27、28、29年で重複者はどの位いますか。

##### 【事務局】

半数以上はいると思います。

サポーター登録者は平成26年度、806人、平成27年度1007人、平成28年度1236人いますので、アンケート送付者は800人位の重複が想定されます。

##### 【委員】

重複者の中で、毎回アンケートを返信してくれる人は関心が高いと考えられる。ターゲットを絞れば効果的ではないか。

### 【委員】

そうですね。34.9%の中にリーダーになってくれる人がいるってことですね。また、「興味がない」と回答した人は、忙しいとか、プレッシャーとかあるとか理由があると思うが、理由わかるのか。聞いていないのであれば、聞いてみると良いと思う。

### 【事務局】

今は聞いていないが、今後聞いてみても良いと思う。

### 【委員】

今年度から記名式アンケートにしているので、次回アンケートでは、回答後追跡が可能になりますね。次回はいつ頃の予定ですか。

### 【事務局】

はい、平成30年夏頃行う予定です。

## (2) 平成29年度元気いっぱいサポーター養成講座中間報告

### 【事務局】

平成29年度元気いっぱいサポーター養成講座について報告させていただきます。昨年度より第2次健康ふちゅう21を推進するために、サポーターが基本的な考え方と取組を理解し、またサポーター同士もつながりを持てるよう元気いっぱいサポーター養成講座を開始しました。昨年度は2日間の日程でしたが、今年度はサポーター同士のつながりをつくるためには2日間では短いのではないかと協議会でもご意見をいただいたので、5日間設定しました。前回にはないグループワークを3回導入していて、参加者同士で話し合う時間を設けました。また、次期保健計画策定時には、食育計画も包含していく方向のため、栄養に関する内容も組み込んでいます。

現在、4日目まで終了していますが、3日目までのまとめた資料2をご覧ください。

内容については、詳細は別紙参照とありますが、口頭で説明させていただきます。

1日目は市より、今回の研修を実施した経緯と目的、講座のながれを説明しました。その後、本協議会会長である東京都健康長寿医療センター 藤原佳典先生より、健康づくりと介護予防は地域みんなで続けることの大切さ、ソーシャルキャピタルの醸成の重要性、ボランティア活動の事例を紹介していただき、歩くことと社会参加が認知症や死亡率を下げ、健康の源となるソーシャルウォーキングの効果を説明していただきました。

2日目は、前半に市から府中市の健康づくりとして、第2次健康ふちゅう21や元気いっぱいサポーターに期待することを説明しました。続いて社協から、地域福祉活動計画あったか府中ささえあいプランの説明とわがまち支えあい協議会の活動内容ボランティア活動について説明をいただきました。後半には地区別のグループに分かれて、グループワークを行い、サポーターに登録した経緯や府中のみどころについて意見交換をしました。

3日目は、ノルディックウォークの実践を行いました。東京都ノルディックウォーク連盟の芝田先生より前半にノルディックウォークの基礎を講話していただき、後半はポールの使い方、歩き方を練習後に、市が作成したウォーキングマップの栄町コースをショートカットして歩きました。

1～3回目までの感想では、1日目の藤原先生の話聞いて養成講座の目的や地域のつながりの重要性が理解できたという意見が多かったです。2日目のグループワークでは、府中

の知らないところがいっぱいあることや出し合った府中の見どころのマップを作りたいという意見が多かったです。3日目のノルディックウォークでは、話しながら楽しく歩けたという感想が多かったです。

先日行われた4日目は、市の食育推進計画の説明と健康的な献立をたてるグループワークを行いました。講話では、現在府中市で活動している府中栄養改善推進員であり、元気いっぱいサポーターの団体登録をされている筒井さんから、活動内容を紹介していただきました。健康的な献立をたてるグループワークでは身近な話題のため盛り上がり、普段の生活を振り返るきっかけが持てたという感想が聞かれました。

最終回の5回目は、全体のまとめと来年1月に予定している新年ウォーキングで歩くコースの見どころを各グループで一つあげてもらい、次の活動につなげていきたいと思っています。

### 質疑応答

#### 【委員】

男性が多いですね。

#### 【委員】

参加者が14～16人で、男性が参加されている。他と比べると男性の比率が高く、出席率もよい。1期生（昨年度）と2期生（今年度）の繋がりがありますか。

#### 【事務局】

あとで詳しく話しますが、1期生には新年ウォーキングの企画運営に携わってもらう予定です。

#### 【委員】

イベントでの顔合わせはよい。先輩後輩を気にする人もいるかも知れないが、楽しいことを計画する場合、上下関係緩和に繋がる。また、サポーターにどこまで役割を任せるかも考える必要があるが、まずは新年ウォーキングの成功が大切である。

#### 【事務局】

12月4日に4回目に、新年ウォーキングの計画を練るが、コース決めから始まり、その後、役割なども検討していく予定です。

#### 【委員】

最初が大切ですからね。

#### 【オブザーバー】

養成講座が5日間になって、より効果的になったのではないのでしょうか。4日目の栄養は、具体的にはどのような内容だったのですか。

#### 【事務局】

前半は第2次食育推進計画の内容、また市の朝食欠食状況についての講義をしました。後半はグループに分かれ『健康的に過ごせる理想的な1日の献立』を考えて、料理カードを用いて選んでもらい、食事バランスガイドに当てはめ、過不足を確認してもらいました。

#### 【オブザーバー】

サポーターのスキルを高めることが大事ですね。

#### 【事務局】

そうですね。そして、地域に広げていきたいと思っています。

## 【委員】

養成講座 2 日目に社協からもスタッフが参加しました。参加する市民は固定されがちになるので、福祉、健康、防災などいろいろな機会を通じて、活発に集まれる機会を作るのが大事だと思うので、一緒にやっていきたいと思っている。

## 【委員】

それは大変すばらしいことだと思います。ウォーキングをすることで健康づくりの機会を作るひとつのきっかけとなります。ウォーキングを通じて、街の課題を発見することもできると思うので、今後も社協との協力でやっていくとより効果が得られると思います。

## (3) 自殺対策について

### 【事務局】

自殺対策事業については、自殺対策基本法に基づき実施していますが、H28.4.1 に自殺対策基本法が改正され、その第 13 条において、都道府県・市町村は、それぞれ自殺対策計画を定める、とされています。これに基づき、厚生労働省が計画のモデルプランを示すことになっており、それが資料 3 にあります、「市町村『自殺対策計画』の手引案」として先月示されました。明日の市町村担当者説明会で詳細が説明されることになっております。本市では、昨年度来自殺対策計画の策定に向けて、事業の体系化を行ってまいりましたので、その内容を生かしながら、計画の策定に着手していきます。

計画の策定について、本市は当課の職員を中心に作業を進めてまいりますが、今後必要に応じて当協議会の中でご意見をいただきたいと考えています。

自殺対策事業については、このほか、小中学生を主な対象とした自殺予防教育について現在取り組んでいます。これは、スライドの教材を用いて、自身がこころの不調を感じている、もしくはこころの不調を感じている友人等から相談を受けている子どもたちに向けて、そのような時は信頼できる大人に相談してほしいというメッセージを伝えることを主な目的としている取組です。この取組は、現在藤原会長の研究室と協働して取り組んでおり、藤原会長が以前から取り組んでいるりぷりんという読み聞かせボランティアの活動と連携して進めていく予定です。このりぷりんと活動は、参加者が読み聞かせの研修などを受けたうえで週に 1 回程度ボランティア活動を続けていて、読み聞かせする絵本などの媒体もじっくり内容を吟味して選書していると聞いております。このことから、スライドの教材を使うだけでなく、あなた自身を大事にしてほしいというメッセージ性のある絵本などを併せて読み聞かせるといった事業の構成で取り組んでいくことを検討しています。

## 質疑応答

### 【委員】

補足させてもらおうと、日本の自殺者は 3 万人位いたのが、現在 2 万人台と全体としては減っていますが、中高年の自殺者の減少で、中高生の 10 代の若年者は減っていません。

自殺総合対策推進センターが自殺対策のモデル事業を募集したのですが、ソーシャルキャピタルの醸成を目指した府中市の元気いっぱいサポート事業を活用できないかと考えて応募したのが、自殺予防教育に関連する事業です。もともと高齢者の社会参加と身体健康維持の両方を目的として、りぷりんという読み聞かせの取組を進めてきて、その活動を自殺予

防教育に取り入れられないかというアイデアを考えています。読み聞かせというと小さい子どもが対象と思われがちだが、中学生くらいの年齢に合った絵本もあり、読み聞かせを通して自分を大切にしてほしいというメッセージを伝えていきたい。府中でもシニア世代の約15人がりぷりんと活動をしている。絵本は、命や自殺などの極端な言葉ではなく、人との繋がりや困った時に助けを求められる力を育てられるような内容を選んでいきたい。

#### 【事務局】

都のプランを見据えながら、府中市の数値目標を検討しなければいけない。教育委員会とは、そのように連携していくかも模索中である。

市では毎年40人前後の自殺者がいる。平成27年度は41人だった。内訳としては、0～9歳が0人、10～19歳は男2人、20～29歳は男8人と若年層が多く、30歳未満が全体の4分の1を占める。議会でも報告したが、府中市の自殺者は、全体としては減ってきているが、若者の自殺は減っていない。

#### 【委員】

社協では、市内3箇所「困りごと相談会」を実施している。相談の中には自殺の内容かと思われるものが数件あった。教育委員会、青少協、相談員とゲートキーパーが繋がると良い。

#### 【事務局】

座間市の事件から、若年者は「死にたい」という発信ではなく、「消えてなくなりたい」という表現、発信をする。市では、若年者の利用が多いと推測される場所として、マクドナルドの一部店舗に相談カードを置かせてもらっている。また、年代によって言葉のニュアンスが違うので、杏林大学生の協力を得て、若年者に受け入れられる言葉やツールを知ることができている。計画にどの程度組み込めるかが今後の課題でもある。計画が絵空事にならないように進めたい。

#### 【委員】

仕組みづくりが大事になってくるのではないかと。個別に行うのには限界があるので、市全体で取り組むことになる。そこはどうなっているのか。

#### 【事務局】

庁内では、職員間で行っている連絡会、事例検討会などで振り返りができている節もあるが、市民には見えにくい取組である。

#### 【委員】

庁内の会議、ネットワークには、社協やNPO法人は入っているのか。

#### 【事務局】

保健所はもともと入っていて、社協は今年度から入っている。国が示す計画案では、医療や警察などとの連携が求められている。

#### 【委員】

医療は、最後の砦となる。その前の活動として、社協やNPO法人とのネットワークが大事である。ソーシャルキャピタルは住民、個人だけでなく地域を捉える。できるだけ、関係機関と繋がり、連携する視点が大切である。

#### 【委員】

地域福祉連絡会には現在10課が入って開催している。健康推進課は入っていないので入ったほうが良いと思う。

#### (4) がん検診のあり方について

##### 【事務局】

平成19年に施行された「がん対策基本法」に基づき、同年に第1期、その後平成24～28年度に第2期の基本計画が策定され、このたび先月10月に第3期のがん対策推進基本計画が策定されました。

第3期は平成29年度から34年度までのおおむね6年を目安として実行期間と定めて実行するもので、資料4-1がその本文です。

この計画の中で、がん検診について述べられているのは、11ページからです。①は受診率向上対策についてで、検診の受診手続きの簡素化、効果的な受診勧奨など、可能な事項から順次取組を進めることが求められています。

②はがん検診の精度管理等についてで、がん検診に必要な徹底した精度管理が市町村の中には十分にできていない状況があり、取り組むべき施策としては、指針に基づいたがん検診の実施及び精度管理の向上が求められています。

10月の基本計画策定に先がけて、本年7月には、東京都生活習慣病検診管理指導協議会がん部会における意見が市に届きました。これは、当該部会が区市町村に対してがん検診の評価、指導等を実施することになっており、その一環として出された意見です。資料4-2の1 がん部会の意見として、肺がんとその他がん検診の2つに分かれて意見が寄せられました。このうち、肺がん検診は、今年度から段階的に指針に合わせた対象者や検査項目にしていますので、H30は指針に基づく検診として実施されることとなります。

その他の前立腺がんと喉頭がんの検査については、そもそも指針にはない検診として市が公費を支出して実施しているものですが、行政が実施する対策型検診としては推奨されていないということで、見直しが求められています。

以上のことから、来年度には、がん検診について検討する会議を立ち上げる予定で予算要求しています。この会議では、指針に基づくがん検診の推進体制について、及び一次・二次検診の受診率向上についての検討を進める予定です。

#### 質疑応答

##### 【委員】

前立腺がん、喉頭がんは、縮小ですか、やめるということですか。

##### 【事務局】

徐々に縮小するか、一気にやめるかについては、今後、検討していく。喉頭がん検診については、毎年定員100人程度対象として実施しているが、今までがん疑いの結果は出てない。発見率がゼロであり、再考するべき時期がきていると思う。市では、がん検診の専門家や有識者等からの意見を取り入れて今後検討をしていく。

##### 【委員】

喉頭がん検診の発見率ゼロだったら、それは仕方ない。

##### 【事務局】

前立腺がんは加齢に伴い発見されることも多いが、科学的根拠が示された検診ではない以上、市がやるべき検診ではないと思う。

## 【委員】

先日、人間ドッグを受診した。オプションで前立腺がんは 2,300 円でできると言われた。血液検査のみで受けやすい検診になる。不安があればそのような機会でも受けても良いのかもしれない。

## 【委員】

前立腺がんは血液検査で判定するものなので、比較的検査しやすくはなっている。今後は医師会とも話し合いが必要になっていくのではないかと思う。

## 3 審議事項

### (1) 元気いっぱいサポーター事業の活動の方向性

#### 【事務局】

元気いっぱいサポート事業の今後の取組について、資料に基づき説明いたします。

現保健計画推進のために実施する元気いっぱいサポート事業は、基本理念の「市民（あなた）が主役！笑顔でつなぐ健康なまち府中」を実現するための中心的な取組として計画開始年度の H27 から実施してきました。主な取組内容は、資料の表にあるとおりです。○サ印があたまについているものは、元気いっぱいサポーターとの協働事業です。

いずれの事業も、市民の心身の健康維持・増進、ソーシャルキャピタルの醸成に資するものとして実施してきましたが、計画期間の前半を終了するにあたり、今後の元気いっぱいサポート事業の方向性について検討いたしました。

元気いっぱいサポート事業を中心に支える存在である元気いっぱいサポーターを養成する講座を昨年度から実施してまいりましたが、2年連続で初日に講義をしていただいている、本協議会会長の藤原先生からは、これからますますシニア世代が元気であることが、世代間の交流・互助の関係をつくり、地域を活性化し、健康長寿の基礎になるということから、「ソーシャルウォーキング」という取組について提案していただいています。このソーシャルウォーキングという言葉は、「社会参加+歩行」を組み合わせた造語で、お手元に配布しています、オレンジ色のパンフレットの6ページに詳しく説明されています。ソーシャルの部分としては、「人と楽しく関わること」を実現させるために、美味しいお店探しでもボランティア活動でも好きなことをできる範囲で実践し、それにプラスしてウォーキングをする、というもので、普段の生活のなかで気軽に取り組める内容を組み合わせただけのものです。このソーシャルウォーキングを意識的に日常生活に取り入れてもらえるようにするために、今後はサポーターによる「ソーシャルウォーキング教室」を開催することを検討しています。

裏面をご覧ください。

今年度の養成講座は12月4日が最終日ですが、その日にソーシャルウォーキング教室について説明し、講座終了後時間をあけずに、1月中に新年懇親ウォーキングと銘打って、ウォーキングイベントを実施する予定です。これは、昨年度、今年度の養成講座参加者から参加を募り、今後のソーシャルウォーキング教室への協力を求めていく予定です。

同じく養成講座において、ノルディックウォークを体験してもらっていますが、非常に好評で、歩く楽しみを再認識してもらう機会になっています。このノルディックウォークの手法も取り入れながら、今後の教室を運営していきたいと考えています。

ただ歩くだけではソーシャルの部分の部分が抜け落ちますので、市内の名所をめぐることや、社協

の協力を得て、作業所見学や社協主催の地域密着型のイベントに参加することなども考えており、参加者同士のつながりの醸成を目指します。

この教室は、サポーター自身が企画から運営までを自発的に行えるようにすることも目的としており、将来的には自主活動化できることを目標にしています。このソーシャルウォーキングの取組は、ユニチャームという企業が注目して社会貢献活動のメニューとして積極的に取り組んでおりますが、そのユニチャームが企画・運営の手法や広告などの分野で協力関係にある博報堂が、市のこの取組に協力してくれることになっております。博報堂のもつ、発信力や事業を魅力的にする手法などを提供してもらいながら、計画の後半の期間における目玉事業の一つとして実施してまいります。

## 質疑応答

### 【委員】

補足をすると、高齢者の認知症予防を研究しているが、有酸素運動や社会参加は、認知機能と大いに関係性がある。ゆえに、有酸素運動や社会参加の両方を補う必要がある。

ウォーキングだけでは、長続きしない。目的や歩くことの楽しみが必要。ウォーキングと社会参加をタイアップさせ、例えば、地域の見守り、遺跡や古跡を探しながらという社会参加を付加した、いわゆる、ソーシャルウォーキングであれば長続きする要素になる。サポーターにも関心を持っていただけるとよい。

われわれの活動に興味、関心をもった企業で、ユニチャームと共に活動をしているが、主に企画や発信といった部分は、その分野を得意とする広告会社として博報堂が担っている。企業も社会貢献活動が求められている。お互いウィンウィンの関係性が構築されているのではないか。

### 【委員】

報告に、栄町コースをショートカットしたとあったが、ウォーキングマップか何かあるのか。

### 【事務局】

もともと平成21年度に市内の地域体育館を中心とした6コースのウォーキングマップあり、平成27年度リニューアルしました。健康推進課の保健師を中心に元気いっぱいサポーターと町内を歩いて、1コース加えて、7コースを協働して作成しました。

ウォーキングマップ作成については、都より補助金が出ています。作成したウォーキングマップは、7コース全て持って帰る人が多くみられます。また、市民からの要望で、都のイベントや観光案内所でも配布しています。

### 【委員】

このウォーキングマップはとてもよくできていて、素晴らしいと思う。

温泉に行くと、施設周辺の散歩マップが置いてある。必ず、歩くようにしているが、Aコース1時間、Bコース30分など2コースあるので、その日の体調等で選択できるので歩きやすい。

### 【委員】

民間、商工会議所と連携してくださいと、国は言うが、民間も地元との連携が大切だと思うがどうしたらよいか分からない。市のコースは商工会議所と連携できないか。裾野を広げると良いと思う。

### 【委員】

1時間の消費カロリーが表示してあるのは嬉しい。ポールを使用すると1.2～1.3倍増になるみたいだが、いくら位で販売しているのか。

**【事務局】**

メーカーによって違いはあるが、概ね7,000円～15,000円位で販売している。ノルデックウォークの手法は、日本では、介護部門に導入されたのが始まりなので、最近では介護用品売り場でも販売している。

**【委員】**

足腰が弱っている虚弱な高齢者にも使用できる。千葉では、防災用に準備している。海岸付近の自治体が地震の二次災害で高台に非難する時にも使われているようだ。

**【オブザーバー】**

ソーシャルウォーキングの評価はどのようにするのか。

**【委員】**

現在、普及啓発しながら、エビデンスを集約している。カロリーが分かる万歩計で、自分で記録を付けていただいている。全く運動をしていない文化系の方が、運動を初めてどう変わったか。また、アクティブの人がどうなったのか調査中である。

**【オブザーバー】**

楽しい気持ちなどの質的な評価も大切ではないか。楽しみや自己評価があると継続したいと思う。

**【委員】**

アンケート等でとりまとめるとよい。

**【委員】**

女性の視点からいうと、産後うつの予防に効果的ではないかと思う。産後、尿漏れなどで困っているお母さんに、ポールを持って歩くことはできないが、ベビーカーを押しながら歩くことで、気持ちが晴れることがあると思う。

**【委員】**

ソーシャルウォーキングという視点で、世代を問わずできることですね。

## (2) 第2次府中市食育推進計画中間評価について

**【事務局】**

前回の第1回目の協議会でご説明させていただきましたが、中間評価は、平成28年度に実施した食育関連事業の実績の報告と、計画期間後半の取組の方向性についてご意見を伺いたいと思っております。

はじめに、市で重点的に取り組んでいる「朝食の欠食をなくす取組」についてご説明いたします。順番が前後しますが、資料6-2をご覧ください。

朝食の欠食の年次推移については、「朝ごはんを食べない人の割合」のグラフをご覧ください。なかなか改善されていないのが現状で、最も欠食が多い20～39歳の青年期は3人に1人が欠食しています。

また、乳幼児期でも3%ほどの欠食がみられ、その後年齢が上がるにつれて欠食が増えています。

また、欠食の理由としては、若齢者では「時間がない」、高齢者では「習慣がない」が多く

なっています。

若いうちに欠食の習慣がつくと、その後食習慣を変えていくのは困難な状況があるため、若いうちから朝食を食べる習慣をつけられるよう、啓発していく必要があると考えています。

その他の取組の実績につきましては、第2次計画において、「生涯にわたるライフステージごとの食育の取組を進める」こととしておりますので、ライフステージごとに報告させていただきます。

資料6-1をごらんください。

ライフステージは、乳幼児期から高齢期まで5つのライフステージに区分しています。後半の取組につきましては、国の第3次食育推進基本計画で掲げられている5つの重点課題を視野に入れた取組の実施を検討しているため、その点についても合わせて報告させていただきます。

まず、乳幼児期です。資料は1～3ページをご覧ください。

乳幼児期で実施している事業は27事業ありました。実施主体は保育所を所管している保育支援課と健康推進課です。

保育所では様々な取組を通し、子どもたちの食への興味・関心の幅を広げており、このような取組を家庭と共有し、日常的なものにしていくことが課題とされています。

一方で、健康推進課の主な対象者は保育所などに在籍していない、家庭で保育している乳幼児です。

初めての赤ちゃんが口にする離乳食作りでは、お母さんたちはいろいろと悩みが多く、離乳食教室や電話相談などの需要が高くなっており、丁寧な対応を心がけています。

保育所で実施している箸の持ち方や餅つきなどの伝承行事は国の重点課題⑤「食文化の継承に向けた食育の推進」に該当します。今後については、地域での取組として、ボランティアグループが中心となって推進していける取組ができるとよいと考えています。

つづいて、学童期から思春期です。資料は5～6ページをご覧ください。

学童期から思春期で実施している事業は12事業ありました。実施主体は学校給食センターを所管している学務保健課です。

学校給食センターは今年度2学期より新給食センターが稼働し、市内小中学校全ての給食が作られています。

新センターでは見学通路を設け、随時施設見学や給食の試食申込みが出来るようになりました。移転後は小学校の社会科見学のみならず、一般市民まで対象を拡大し、より幅広い層に対する食育を推進していくこととしています。

また、新学校給食センターの利用開始に伴い、給食センターのキャラクターが決定しました。6ページの下をご覧ください。市内小中学校の児童生徒1,019点の応募により、小学校は5大栄養素を描いた「給食5レンジャー」、中学校は市の特産物の小松菜をモチーフにした「らんちーず」に決定し、現在給食の配送車等に描かれ、様々な食育活動に使用されています。

各種農業体験は、国の重点課題④「食の循環や環境を意識した食育の推進」の取組に該当するため、より多くの新規参加者を増やし、食の循環から食品ロスに関する理解を広めていくことが課題と考えています。

つづいて、青年期です。資料は7ページから9ページをご覧ください。

青年期で実施している事業は15事業ありました。実施主体は健康推進課及び文化生涯学習

課です。事業としては、青年期本人を対象とした事業、子どもの保護者や親子を対象としたものがあります。

また、昨年度は初めて東京農工大学の大学生協と協働して食生活相談会を実施し、大学生の生の声を聞くことができました。

家族や仲間と一緒に食べる共食の頻度については、9ページの下段にある2つの円グラフをご覧ください。左側の平成25年度は「家族」と右側の平成27年度は「どなたか」と食べる頻度について調査しましたが、いずれも半数程度が「毎日食べている」と答えていました。

また、データは掲載していませんが、同居者の有無別にみると、一人暮らしの3人に1人が「ほとんど食べない」と回答していました。

国の第3次食育推進基本計画では、重点課題①として「若い世代を中心とした食育の推進」が掲げられており、健全な食生活の実践を次世代につなげていくため、若い世代への食育のアプローチ方法などについて検討していく必要があると考えています。

つづいて中年期～初老期です。資料は11ページから12ページをご覧ください。

中年期～初老期で実施している事業は7事業ありました。

実施主体は健康推進課です。

職場や地域社会、家庭において中心となって活躍する年代であるため、ストレスがたまりやすく、自らの健康管理がおろそかになりやすい年代です。

40歳を過ぎると生活習慣病の発症などが危惧されますが、12ページのグラフによると、適正体重を維持している人の割合は増加しました。

国の重点課題③として「健康寿命の延伸につながる食育の推進」が掲げられており、生活習慣病予防として、より一層の健康管理が必要であるため、正しい情報の発信が必要となっていますが、就労などにより、各種講座の参加が難しい状況があるため、アプローチ方法について検討が必要であると考えています。

つづいて高齢期です。資料は13ページから15ページをご覧ください。

高齢期で実施している事業は13事業ありました。

実施主体は高齢者支援課及び健康推進課です。

心と身体にゆとりが生まれ、市で実施する各種講座への参加が最も多い年代です。

共食の頻度については、15ページ上のグラフをご覧ください。同居者がいると「毎日」が8割を超えていますが、一人暮らしでは「ほとんど食べない」が半数を占めています。

下の4つのグラフ「肥満者と低体重者の割合」をご覧ください。

平成22年と平成27年で比較してみると、肥満者は減少していますが、低体重は若干増加傾向にあります。

日々の栄養相談では、野菜は気を付けてしっかり食べている人が多いものの、炭水化物やたんぱく質については自己判断により減らしている人が見られ、低栄養が懸念されるケースが増えてきています。

手作りだけではなく、惣菜等を利用した中食やレストラン等で食べる外食を活用してバランスよく食べる方法についても啓発していく必要があります。

国の重点課題②では「多様な暮らしに対応した食育の推進」が掲げられており、その推進にあたる目標として「地域で共食したいと思う人が共食する割合を70%以上にする」ことを目標としており、一人暮らしの高齢者など孤食になりがちな人たちが共食できる機会が増

えるとよいと考えています。

以上がライフステージに応じた食育の実績となります。

つづいて、資料6-3「平成28年度食育関連事業 成果及び課題等」をご覧ください。

概ねどの課も想定していた成果は得られたとしています。その一方で、リピーターが多く、新規の参加者を増やしていくことや講座に参加のない市民へのアプローチ方法や家庭や地域との連携について検討していくことが課題とされています。

地域の取組については、資料はありませんが、府中観光協会でも市内特産品のPRをしており、特産品である黒米を加工したうどんや焼酎、洋菓子なども作られています。

また、市内の農産物直売所では、府中栄養改善推進員の会が作成した野菜レシピを設置し、野菜摂取量の増加に取り組んでいます。

以上が平成28年度の食育関連事業の報告になります。

計画後半の取組につきまして、新たに取り組むべき事業や改善したほうがよい事業等ありましたら、ご意見をお願いいたします。

## 質疑応答

### 【委員】

市内小学校で学校医を受け持っているが、その学校での朝食欠食率は市の調査結果より多い気がする。朝食欠食は頭の回転が悪くなると養護教諭が言っていたので朝食は大切だが、調査が違うのか。

### 【事務局】

学童期・思春期の場合、市の調査は『東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査』の結果である。各学校の結果は把握できていません。

### 【委員】

万が一調査結果で地域性があるなら、考えなければならないのではないか。

### 【オブザーバー】

朝食欠食の増加が懸念されていますが、府中市ではどのような取り組みをしているのですか。

### 【事務局】

当課の事業で朝食の大切さを訴えている。また、市内栄養士会（当課、学務保健課（給食センター）、子育て支援課（保育所））で朝食の欠食を防ぐために『カンタン朝ごはんレシピ』を作成し各課で配付したり、ホームページに載せたりしている。

### 【オブザーバー】

働く世代へのアプローチが難しいと思うのだが、どのようにしているのか。例えば、商工会議所との繋がりも大切だと思う。

### 【委員】

自分が若かった頃は、独身従業員用に昼食を会社で支給していた。独身男性社員は朝食を食べてこないの、おにぎりやパンを用意していた。

### 【委員】

それはすばらしい。田中委員のアイデアですか。

### 【委員】

泊りがけで働いている従業員がいるので、そのために用意していたが、通常出勤者も食べ

ている。うちは、家族みたいなものですから。

**【委員】**

食べられる環境を作るお節介が若い人には必要ですね。若い世代の食行動を変えるには、お節介程度にやらないと改善されないと感じますが、如いては、仕事の効率などに繋がる。会社にとっても良いことになる。他でも、どんな取り組みをしているのかを知ること大事ですね。

**【委員】**

若い世代はお金がなくなると朝食、昼食を食べないです。そうすると仕事に影響がでてしまいますからね。

**【事務局】**

社風もあるかも知れないが、まずは目につく媒体を作成し、周知していく必要があるかもしれない。

**【委員】**

啓発がまずは第一で、企業経営する人に朝食摂取の大切さを知ってもらいと良いのではないのでしょうか。媒体の中に具体的に取り組んでいる会社があるというのを盛り込むと良いと思います。

**【オブザーバー】**

中間評価の報告、取り組みは、市民にはどのように知らせる予定ですか。

**【事務局】**

今回の議事録、市のホームページでデータを取り入れて伝えていきます。また、庁内の食育関係機関部署では適材適所で知らせていきます。商工会議所にはメールなどで配信しています。(商工会議所ニュース、メルマガ)

**【オブザーバー】**

市民には、どのようなところに問題があり、どのように改善すべきかなど、具体的にお伝えすることも大切ではないかと思います。

## 4 その他

### (1) 平成29年度府中市保健計画スケジュールについて

今後といたしましては、第3回を2月あたりに開催する予定です。